

資産運用レポート：インフラファンド

1 はじめに

最近、活用方法次第では、分散投資の一環として妙味を感じている投資対象があります。インフラファンドです。

インフラファンドとは、太陽光発電をはじめとする再生可能エネルギー発電設備などに投資を行うファンドです。基本的な仕組みはJ-REITと同様で、J-REITのインフラ版とってもらえば分かりやすいかもしれません。

2015年4月、東京証券取引所にインフラ市場が開設され、2016年6月には上場インフラファンド第1号としてタカラレーベン・インフラ投資法人が上場しました。比較的新顔の投資対象と言えます。

インフラファンドのメリットは次のとおりです。

- 分配金利回り6%以上の銘柄が多く、4%前後のJ-REITより利回りが高い
- 売電収入が固定価格買取制度（FIT）で保証され、安定した分配金収入を期待できる

一方でデメリットもあります。

- 固定価格買取制度は20年間限定となっており、それ以降の収益が不透明
- 分配金のうち、利益超過分配金（タコ足配当）の占める割合が大きい

どのような投資対象でも、メリット・デメリットがあります。それらを踏まえた上で、いかに自分の投資に組み入れるか検討すべきでしょう。

今回の資産運用レポートでは、インフラファンドの中から3銘柄を取り上げます。

★インフラファンド 銘柄一覧

コード	投資法人名	投資口 価格	時価総額 (百万円)	分配金利 回り(%)	決算期	上場年月
9281	タカラレーベン・インフラ	108,400	31,941	6.32	5月、11月	2016年6月
9282	いちごグリーンインフラ	66,900	6,888	5.90	6月	2016年12月
9283	日本再生可能エネルギーインフラ	104,000	20,862	6.15	1月、7月	2017年3月
9284	カナディアン・ソーラー・インフラ	123,700	47,829	6.06	6月、12月	2017年10月
9285	東京インフラ・エネルギー	98,000	10,889	6.23	6月、12月	2018年9月
9286	エネクス・インフラ	87,400	30,509	6.86	5月、11月	2019年2月
9287	ジャパン・インフラファンド	91,200	19,582	6.45	5月、11月	2020年2月

注：投資口価格、時価総額、分配金利回りは12月3日終値